

# 韓国におけるMe Too運動

嚴 廷美 准教授 (経済学部)

Me Too運動は2017年アメリカで始まった性暴力(レイプ)や性醜行(セクハラ)を告発するハッシュタグ運動である。韓国では2018年1月29日、検察庁の現職の検事がJTBCという民営TVニュースの生放送に出演し、法務部の上司による性醜行を暴露したソ・ジヒョン事件がMe Too運動の導火線となった。ソ・ジヒョン事件の後、Me Too運動は各界各分野に広がりを見せるような形で、政界や演劇、映画、文壇などの芸術界、最近ではスポーツ界に至るまでMe Tooの告発は続いている。ソ・ジヒョン検事の事件に対して、ちょうど先日(このエッセーの作成日は2019年度1月)、加害者に実刑2年と法廷拘束という裁判所の1審の結果が出ている。

2018年2月、ムン・ジエイン大統領領はMe Too運動を重く受け止め、被害事実を暴露した被害者たちの勇気に敬意を示すとともに、積極的に支持する<sup>1)</sup>と声明を発表し、被害者の救済に積極的に対処するよう関係機関に注文するなど、国内の性暴力への認識は高ぶり、単なる一時的なムーブメントではなく、一層現実味を帯びる性的暴力事件として裁かれている。

Me Too1号とも言えるソ・ジヒョン検事の告発からほぼ1ヶ月後、政治界を揺るがす大型告発が行われた。次期与党の大統領候補とも言われた道知事(日本の県知事にあたる)に対する女性遂行秘書による暴露である。この事件は、男女の恋愛のもつれであるという意見と威力による性暴力であるとの意見の間で世論が二つに分かれ、様々な政治的憶測がなされたが、道知事自身は知事職の辞任はもろんのこと、刑事告訴されることによって、政治界から身を引かざるを得ない状況に追い込まれた。近々、裁判所による2審の結果が発表されることになる。1審に続き、無罪を勝ち取ったとしても、加害

者として刑事告訴された時点で政治生命は絶たれてしまい、政治家としての彼の力量を惜しむ声も少なくない。

次に、芸術界におけるMe Tooである。韓国を代表する詩人で、ノーベル文学賞の候補としても名の挙がった大物詩人に対する女性同僚詩人による性醜行の告発である。韓国文壇を代表する国民的な詩人による性醜行の告発は人々に大変な精神的衝撃と疲労感を与えることになる。しかし、この事件の興味深いところは、告発が行われた数ヶ月後、加害者として訴えられた詩人が被害者の女性詩人を名誉棄損で損害賠償訴訟を起こしたことである。逆に被害者の女性が訴えられたのである。今現在も裁判は続いており、その結果が待たれている。

これらの事件が落ち着きを見せるが否や2018年12月、冬季オリンピックショートトラックの国家代表選手からのコーチによる身体暴力及び性暴力が告発された。去年のピョンチャンオリンピックのメダリストでもあるスター選手への性暴力は韓国国民に大変なショックを与え、性暴力根絶のための国家的システムの構築が叫ばれている。先日、教育部、文化体育部、女性家族部の政府の3機関が共同で根本的な対策とあらゆる暴力行為を根絶するためのシステムづくりのため、共同で「To」が作られるようになった。数日前(1月27日)、大統領夫人から被害選手へ送られた激励の手紙とプレゼントは韓国国民の被害者の選手に対する声援の気持ちを代弁するかのようなものとして心温かく受け止められている。

このように、韓国のMe Too運動は現実社会の中で歴々とした形を持った事件としてそれは非が審判される現在進行形の重要な社会問題として位置づけられており、弱者(主に女性)がMe Too言いやすい環境が整えられつつある。